

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201245
法人名	株式会社ファミーユ
事業所名	グループホームつぐみ八坂
所在地	清水区八坂北2丁目20-25
自己評価作成日	令和 5年 10月 4日
評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201245-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 5年 11月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人の事を知るためにスタッフ同士で常に情報の共有を大切にしています。 ・利用者の好みや楽しみを知り、おやつレクリエーション、外出等の時間を提供しています。 ・訪問診療を受けていることから、日頃の体調に変化があっても往診で見て頂ける安心感がある。 ・介護経験が長いスタッフが在中している為、家族の思いや関わり方を熟知している。経験年数が浅いスタッフへの指導も丁寧に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、個別ケアに力を入れ、例えば「ひまわりを育てたい。」という意見を聞くとすぐに取り組むようになっている。また、保有能力を活かしたケアにも注力し、ベテラン職員が新人職員に日常的に指導をし、全体的に丁寧な対応ができるよう心掛けている。職員一人一人が考えて行動し、職員の良いケアの実践は、経験や年齢に関係なく採用している。社長がこまめに来所し職員と会話をして意見を聞き、法人全体ではイベントや研修が盛んに行われ、レクリエーションや体操、運動にも力を入れ、QOLを下げないようにしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに事業所の目標を掲げている。目につく場所に張り出し職員が同じ意識で進められるよう務めている。地域の環境に慣れ親しむことも視野にいれ積極的に近所の方々に挨拶をしている。	職員全員で理念に基づいた事業所の目標を会議で話し合っ決めて、年度で振り返って新しい目標を立てている。個人の目標も作成し、年に2回面談の時に振り返りと評価をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気候の良い時は、周辺を散歩している。スタッフが駐車場の草取りを定期的に行っており、近所の住民と挨拶を交わし雑談をしている。施設について質問され関心を持って下さっていた。保育園の職員や保護者と挨拶を交わす。	自治会に加入し、河川清掃は事前に割り当て分を職員が行っている。散歩や公園で近所の人と挨拶を交わし、コロナ前交流のあった保育園とも以前のように交流を再開していく予定である。地域の祭りも再開され次第協力する準備をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が再開され、参加者同士で意見交換を行っている。助言もいただき次回の委員会に活かしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の4月より運営推進会議を再開している。包括支援センターの職員、自治会長、ご家族が来所され質問や意見をいただいている。	今年度4月より運営推進会議を対面で開催し、第4金曜日の18:00から地域包括支援センター職員、自治会長、後見人、小規模多機能の家族の参加を頂いて利用者の状況、事故報告やヒヤリハット、研修内容、行事等を報告し意見交換を行っている。	グループホームの家族や民生委員にも参加してもらえるように働きかけ、質疑応答の内容を議事録に記載し、家族に公表し、運営に活かせるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問を依頼。10月10日に介護相談員が来所予定。	介護相談員が10月から訪問してくれるようになった。生活保護者の担当課も定期的に来所し、包括支援センターとは訪問したり電話で相談したり、利用者の紹介を受けている。「眠りスキャン」のモデルケースとして事業所が受け入れた経緯がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束予防をテーマに実施。3か月に1回委員会も行っている。ごまめに、転倒注意の利用者が不穏になり立ち上がりそうときは拘束ベルトをつけている。経過記録も書いている。	指針、マニュアルは整備され、職員は全員閲覧している。委員会は各事業所の担当委員で構成され、3か月に1回開催され、話し合った内容は月の会議で報告している。研修は年間計画の中に2回組み込まれ、全員参加している。	

静岡県(グループホームつぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で高齢者虐待をテーマにし実施している。委員会を設置し3か月に1回実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の施設内研修時に成年後見制度について学んでいる。制度を活用している利用者については、後見人、保佐人と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ながら説明をしている。その際に不明点があればご質問して頂きさらに詳しくお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会の機会が再び増え利用者の楽しみが増えつつある。家族からの要望は職員を通じて報告がある。少しでも早くお答えできるように改善している。	月に1回担当職員のコメント付きで写真を掲載したお便りをキーパーソンに送付している。コロナ禍でも感染対策をして、面会を継続し、現在は自由に来所できるようになっている。電話や家族が来所した際に意見を伺い、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回各事業所で職員から意見を聞く機会を作っている。そこで、代表から職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	代表者と管理者からの面談がそれぞれ半年に1回行われ、代表者は頻繁に事業所を訪問して職員の話の聞いている。職員会議でも職員から活発に意見があり、意見は受け止められ、回答がある。4年ぶりに全事業所合同の秋祭りが開催される予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員は目標を掲げ、面談を上司と行う。自己評価しながら次のステップに繋げられる助言をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の施設内研修予定を作成し、毎月担当者より講和があり報告書を記入。新人職員に対しては、2日間の介護基礎研修を社内で行っている。		

静岡県(グループホームつぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新人職員が行ったケアがとても大きな意味があったことを知り、職員間で新たな気づきだったと話しあえた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ケアプラン作成時のご家族の意向も確信している。毎月のお便りからご様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族がどんなことに困っているのかを聞き取る。その状況かケアプランを作成し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居住スペースで共に過ごしながら、暮らすための事(掃除、洗濯、食器洗いなど)を行っている。職員は環境の一部という意識を持ちながら業務に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族の思いを大切に関わりを何度も持ちながら関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会のご要望に応じています。人数制限もなく、賑やかな時間を過ごし頂けるよう努めています。外出も特別制限がない為お墓参りや誕生会にご家族と出掛ける方もいらっしゃいます。	お墓参りや美容院へ家族と外出し、その際、外食や買い物をしている。友人、知人からも面会の問い合わせがあり、つながりが途切れないよう支援に努め、1階の小規模多機能事業所のイベントにも参加して関係を継続している。	

静岡県(グループホームつぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、気の合いそうな方々同士の座席に配慮している。お互いにとって心地よい環境を常に考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移ったご家族のみだが、所用がありで連絡し少し話げできた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望を聞き取り、出来る限り実現に努めている。外出や食事、身だしなみについてお聞きし会議等で検討した。	事業所は個別ケアに力を入れているので職員は利用者を注意して観察し、情報共有を行いケアに活かしている。困難な方には声かけをして反応を見て職員で話し合い、対応方法を模索している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前に本人や家族から詳しいことをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活能力に合わせて把握するよう務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議などで話し合い、介護計画に反映させている。ご本人やご家族にも話している。24時間シートは変化があれば更新していく。	24時間シートとタブレットに利用者の様子を記入し、職員は出勤時に確認後、業務に入るようにしている。モニタリングとカンファレンスは職員会議で行っている。医師や作業療法士、看護師の多職種の意見を参考にして介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや会議で日々のケアについて見直しなど行っている。		

静岡県(グループホームつぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族が望んでいることについて、できる限り応えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけた際には、近隣の保育園の子供たちや教諭と挨拶を交わす。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の訪問診療を月2回受けている。事前に様子をFAXで送り、診察してほしい箇所などあらかじめ伝えておく。医療体制加算で看護日誌の活用をしている。	現在は2カ所の協力医の訪問診療を月2回受けているが、来年1月より1カ所の協力医に変更予定である。24時間相談ができ、他科の初期対応も行ってくれ、受診前に利用者の様子や気になる点をFAXで知らせ、事業所内の看護師にも相談ができる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に報告、相談、連絡をしている。気になる事があれば連携をとっている。何かある場合には訪問看護や受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	基本情報の提供を行っている。看護師に相談しながら病院との連携を摂るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族に説明し署名を得ている。終末期の対応の確認も行っている。主治医、看護師と相談し対応している。年間の研修内容に看取りの研修がある。	入居時に本人、家族に事業所の方針を説明して同意書を得ている。状態に変化があると医師が看護師に状況を伝え、事業所は家族に説明をし、同意書の再確認と今後の対応について話し合い、支援に取り組んでいる。看取りの研修は年間計画に組み込まれ看護師が行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、急変時の対応を研修で学びなおしている。また看護師から詳細を聞き、ADLの使い方の動画も観ている。		

静岡県(グループホームつぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練で避難所の確認や屋外に逃げる訓練、水消火器の訓練をしている。	防災委員が訓練の内容を計画し実施している。消防署も年に1回参加があり、備蓄はリストが準備され本部と情報共有をして管理している。連絡網は作成中で、夜間想定の方災対策は未整備である。	早めに連絡網を作成して訓練に活かし、夜間訓練は、全員が実施し、不安要素をなくせるよう希望します。発電機を実際に使用して訓練を行い、地域との協力体制についても築けるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の表情や言葉から、その人に合わせた声かけやアプローチ法を考えている。接遇の社内研修でも適切なコミュニケーションを振り返っている。	年間の研修計画に接遇を取り入れている。日頃から利用者への声かけ、対応は経験豊かな職員が新入職員へ指導しているが、良い点は互いに認め合い、気づいたことは職員会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中からお要望が聞けたり、外出先で好みのものを選んでいただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分が過ごしたい時間を過ごしたい場所で過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容に来ていただきヘアカット、ヘアカラーをお願いしている。ヘアアクセサリをつける方もいた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	小鉢など使い、食事の盛り付け見た目にも配慮している。食べやすいよう硬さも考えている。	栄養士が作った献立を職員が調理している。食材も職員が買い出し、時には利用者も同伴している。誕生日、敬老会等イベントには利用者より希望を聞いて好みのお寿司や刺身などを提供し、利用者には野菜を洗ったり、盛り付け、食器洗い、拭き等出来る事に積極的に参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を把握している。栄養士による献立表を元にバランスがとれる食事の提供に務めている。		

静岡県(グループホームつぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による口腔内のケアや治療を受けている。食後にできる限りご自分で磨いて頂き、磨き残しは介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で個々の排泄パターンを把握している。できる限り自立につながる声かけや介助法を行っている。	排泄の記録を基に個々の排泄パターンを把握して、自立の利用者は見守り、2人介助での支援、時間でトイレ誘導等できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間は眠りを妨げないように「眠りスキャン」を利用している。パットを使用していた利用者が入居後、布パンツになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日欠かさず体操の時間を設けている。ペダル漕ぎなど数種類の器具も使い体調管理に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が不安な方にささやくような声かけをしたスタッフがおり、利用者にとってリラックスできた時間だった。新たな介護の支援法との声がかた。	週3～4回、1日4人を目安に入浴支援をしている。基本は午前中の入浴であるが、イベント等で午後入浴にも対応している。入浴剤も数種類準備し好みの物を選んでもらう機会を設け、現在強い拒否者はいないが、声かけや職員を替えたりと工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シート状のセンサーマットレスを利用し、夜間安眠ができるように訪室のタイミングを個々に変えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を把握して職員間で共有している。保管については誰でも分かりやすく仕分けしている。誤薬がないようチェックの回数を増やし工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後の片付けや洗濯物をたたむ事など職員と一緒に手伝ってくださる。		

静岡県(グループホームつぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ができる機会が増え、市内にある動物園や大型ショッピングセンターに行き希望していたものを購入された。	日常的に事業所近くの公園へ散歩に出掛け、この春には動物園や海を見に出かけたり、ショッピングセンターで買い物の外出支援を行った。家族と一緒に外出も緩和され、事業所は、紅葉見物を兼ねて近くの公園でお弁当を食べようと計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	市内にあるショッピングセンターに買物に出掛けた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には年賀状を送っており、一緒に考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあわせた掲示物を一緒に作成し話題にしている。2階に居住スペースがあり日当たりが良く、暑い日もあったがカーテンやエアコン、扇風機で対応できた。	両側に窓があり食堂、居間は明るく風通しが良い。利用者はテレビを見たり、季節の作品を作成したりと居間で1日を過ごす方が多い。清掃や手すりの消毒は夜勤の職員が行い、温湿度計、空気清浄機を備え、窓を開け換気を定期的に行い、清潔な環境整備に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが3つあり、それぞれ談笑したい方や静かに過ごしたい方など配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が大切にされてきた物などを持参して頂いている。ご家族にも衣替えなど協力して頂いている。車椅子や歩行器などが使いやすいように整理整頓に心掛けている。	テレビ、ダンス、ハンガーラックなど使い慣れたものを持参してもらい、居室内は、動線を考えて配置されている。衣替えは家族に協力してもらっている。利用者の中には好きなテレビ番組を居室で見たり、スマホを持ってきて家族や友人に電話をかけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。長い廊下には、安心して歩行ができるように手すりが付いている。		